



うめ の よう へい  
梅野洋平さん

プロフィール

33歳。豊玉町曾出身、在住。豊玉高校卒業後、鹿児島大学の大学に進学。就職と同時に上京。プリンスホテル勤務後、システム運用会社勤務を経て、郵便局株式会社（当時：日本郵政公社）に入社。28歳で帰郷し、曾郵便局の局長に就任。以前このコーナーに登場された西山智雄さんや山根高義さんとは対馬ウォーキング協会を通じてのお知り合いで、同協会の副会長。奥さまとお子さんとの4人暮らし。

対馬を離れてわかった「対馬の良いところ」は？

地域の人同士の「絆」が今も残っているところ。そして何と云っても魚や食べ物がおいしいところ。上京している時は対馬のイカや魚・蜂蜜を定期的に送ってもらっていました。職場にイカで有名な北海道函館出身の先輩がいたので、試しに対馬のイカを食べてもらったところ、その肉厚さと美味しさにびっくりしていました。その時はなぜか自分が勝った気がして嬉しかったです（笑）。それと、システム運用会社で働いている頃、当時の対馬市のホームページで対馬の映像と共に「夢・この街」が配信されていたので、徹夜で残業中に聴いて癒されていました（笑）。

対馬に戻られたきっかけは？

東京で結婚して25歳で長男が生まれたんですが、その時「この子のために生きよう」と思ったのと同時に、親へ何も恩返ししていないという懺悔の気持ち湧いてきたんです。故郷へ帰ることが親への恩返しになるなら悔いの残らない最大限の努力をしよう、必死で勉強して郵便局の試験を受けました。

来店される方にとっても和やかに接していらっしゃいますね。

郵便局は「お客様に営業している」のではなく、「お客様のほかで営業をさせていただいている」という思いで仕事をさせていたでいます。この地区の皆さんは、優しい方が多いんです。先日、曾地区で年に一度行われる「ヒジキ切り」に参加したんですが、その中で私が一番若かったたので、飴やトコブシをもらったりと可愛がついてたでいて（笑）、嬉しかったです。「ヒジキ切り」の作業はいかがでしたか？

磯場は足元が滑りやすいですし、しゃがみ込んでの作業ですから、思った以上に重労働でしたね。船で磯に向かうと、一面にヒジキがきれいに生えていて、やっぱり「宝の海だなあ」と思っていました。磯焼けでヒジキがなくならないように、この海を守っていかなくては行けませんね。対馬で生活していて感じることはありますか？

年配の人がとつても元気なこと（笑）。だけど個人的には、僕らの世代がもっとしっかりしないといけないと感じます。世帯を代表して地区の冠婚葬祭や会合に顔を出して、地区のことを勉強しないと行けないと思

ます。地区の歴史なども、知らないことや学ぶべきことがいっぱいありますね。たとえば、昔は「ヒジキ切り」の作業は、婦人会の皆さんだけで何日間もかかって行っていた、という歴史があるなんて最近まで知りませんでした。そういつた知識は、地区の会合に参加すると年配の方々が優しく教えてくれますし、若い世代も知らなくてはいけません、と思うんです。

今興味のあることは？

そばと蜂蜜の栽培です。対馬は唯一、二ホンミツバチのみ生息する島で、そばの花はミツバチが好む蜜源植物なんだそうです。休耕田にレンゲやそばを植えて、ミツバチがたくさん蜜を作ってくれる環境が作られたらいいですよ。他にもアカシアやユリノキなど蜜源植物にあたる広葉樹の樹木が多く植樹されていたら、同時に海も元気になるって蜂蜜の採集量も増えていかなかなあ、と。そういった活動もしたいんですが、何しろ時間がなくて（苦笑）。まだ夢を描いている状況です。

毎回、登場してくださった方に次の方を紹介いたでたくこのコーナー。次回は豊玉町仁位在住の阿比留祐樹さんです。お楽しみに。